

第 3 8 回 議 会 運 営 委 員 会

と き 平成 2 9 年 6 月 5 日 (月)

午前 1 0 時

と ころ 第 1 委 員 会 室

付 議 事 項

1 平成 2 9 年 第 2 回 (6 月) 定 例 会 に 関 す る 事 項 に つ い て

(1) 会 期 案 に つ い て

6 月 9 日 (金) から 6 月 2 8 日 (水) ま で の 2 0 日 間

(2) 議 事 日 程 案 に つ い て … 資 料 2

(3) 一 部 事 務 組 合 議 会 の 報 告 に つ い て

宇 部 ・ 山 陽 小 野 田 消 防 組 合 議 会 の 報 告 を 定 例 会 初 日 の 6 月 9 日 に 行 う 。

(申 し 合 わ せ 事 項 案)

4 2 の 2 宇 部 ・ 山 陽 小 野 田 消 防 組 合 議 会 の 報 告 は 、 3 月 と 6 月 の 定 例 会 初 日 に 行 う 。

(4) 人 事 案 件 の 取 扱 い に つ い て

人 事 案 件 に つ い て は 申 し 合 わ せ 事 項 の 6 4 に よ り 行 う 。

○ 申 し 合 わ せ 事 項

(人 事 案 件 の 委 員 会 付 託)

6 4 人 事 案 件 は 、 委 員 会 付 託 を 省 略 し 、 原 則 と し て 本 会 議 初 日 に 上 程 し 、 提 案 理 由 の 説 明 後 、 休 憩 し 、 全 協 で 質 疑 を 行 い 、 再 開 後 、 採 決 す る 。 た だ し 、 議 会 選 出 の 監 査 委 員 に つ い て は 、 全 協 で の 質 疑 は 行 わ な い 。

(5) 代 表 質 問 に つ い て

- ・ 発 言 時 間 は 一 人 当 たり 6 0 分 と す る 。 (一 人 終 了 す る た び に 休 憩 を 挟 む)
- ・ 質 問 者 席 で 行 う 。
- ・ 市 長 答 弁 (再 質 問 を 除 く) は 登 壇 し て 行 う 。

- ・総括質問・総括答弁の形式とする。

6月12日 正午まで	代表質問通告書の提出、抽選
6月13日 正午まで	代表質問要旨の提出
6月13日 午後1時30分から	質問者による調整

(6) 選挙管理委員会の委員及び同補充員の選挙について

選挙管理委員4人及び同補充員4人の任期が7月5日をもって満了する。

定例会最終日に議会において選挙を行う。

○申し合わせ事項

(指名推選)

51 次に掲げる選挙は、地方自治法第118条第2項に基づく指名推選による。

- (1) 一部事務組合議会の議員
- (2) 選挙管理委員会の委員及び同補充員

(7) 議員派遣について

定例会最終日に決定する。

山口県市議会議員研修会 8月17日(木) 光市

(8) 陳情・要望書等の取扱いについて …資料3

- ・平成29年度理科教育設備整備費等補助金事業実施のお願い
- ・「地球と人間を守れる社会体制創り」の為の地球社会建設決議陳情書

(9) 「地方議会議員の厚生年金への加入を求める意見書の提出等について」の取扱いについて

2 その他

(1) 議会運営委員会の開催日

- ・6月12日(月) 午後1時30分

(2) 全員協議会の開催日

- ・6月9日(金) 午前9時15分 議運決定事項

平成 29 年第 2 回（6 月）定例会議案名

市長提出案件（議案 20 件、報告 4 件）

○総務文教常任委員会関係（3 件）

- (1) 議案第 52 号 山陽小野田市組織条例の一部を改正する条例の制定について (人事)
- (2) 議案第 53 号 山陽小野田市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について (消防)
- (3) 議案第 54 号 物品の購入について (学教)

○民生福祉常任委員会関係（1 件）

- (1) 議案第 51 号 平成 29 年度山陽小野田市介護保険特別会計補正予算（第 1 回）について (高齢)

○一般会計予算決算常任委員会関係（1 件）

- (1) 議案第 50 号 平成 29 年度山陽小野田市一般会計補正予算（第 2 回）について (財政)

○人事案件（15 件）

- (1) 同意第 8 号 山陽小野田市教育委員会の教育長の任命について (人事)
- (2) 同意第 9 号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)
- (3) 同意第 10 号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)
- (4) 同意第 11 号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)
- (5) 同意第 12 号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)
- (6) 同意第 13 号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)
- (7) 同意第 14 号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)
- (8) 同意第 15 号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)
- (9) 同意第 16 号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)
- (10) 同意第 17 号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)

- (11) 同意第18号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)
- (12) 同意第19号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)
- (13) 同意第20号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)
- (14) 同意第21号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)
- (15) 同意第22号 山陽小野田市農業委員会の委員の任命について (人事)

○報告（4件）

- (1) 報告第1号 繰越明許費予算の繰越しについて (財政)
- (2) 報告第2号 繰越明許費予算の繰越しについて (下水)
- (3) 報告第3号 建設改良費予算の繰越しについて (水道)
- (4) 報告第4号 山陽小野田市国民保護計画の変更について (総務)

○行政報告

- (1) 山陽小野田市土地開発公社の平成28年度決算概要及び平成29年度事業計画概要について (管財)
- (2) 養護老人ホーム長生園組合の平成27年度決算概要について (高齢)
- (3) 宇部・山陽小野田消防組合の平成27年度決算概要及び平成29年度事業計画概要について (消防)
- (4) 小野田中央青果株式会社の第35期事業年度営業報告について (農林)

平成 29 年第 2 回（6 月）定例会議事日程

月	日	曜	開議時刻	会議名	摘 要
6	9	金	午前 10 時	本会議	<ul style="list-style-type: none"> ・会期の決定 ・諸般の報告（行政報告、事務報告） ・一部事務組合議会の報告 ・同意 15 件を一括上程、説明、質疑、討論及び採決 ・報告 4 件を一括報告及び質疑 ・平成 29 年度施政方針並びに議案 5 件を一括上程、説明、質疑及び委員会付託
6	10	土		休 会	
6	11	日		休 会	
6	12	月		休 会	<ul style="list-style-type: none"> ・一般・代表質問通告締切り（正午まで） ・議会運営委員会
6	13	火		休 会	<ul style="list-style-type: none"> ・代表質問要旨締切り（正午まで）
6	14	水	午前 10 時	委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・総務文教常任委員会
6	15	木	午前 10 時	委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・民生福祉常任委員会
6	16	金	午前 10 時	委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・一般会計予算決算常任委員会
6	17	土		休 会	
6	18	日		休 会	
6	19	月		委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・予備日
6	20	火		休 会	
6	21	水	午前 10 時	本会議	<ul style="list-style-type: none"> ・代表質問（ 人）
6	22	木	午前 9 時 30 分	本会議	<ul style="list-style-type: none"> ・一般質問（ 人）
6	23	金	午前 9 時 30 分	本会議	<ul style="list-style-type: none"> ・一般質問（ 人）
6	24	土		休 会	
6	25	日		休 会	

6	26	月	午前9時30分	本会議	・一般質問（人）
6	27	火		休会	（議事整理のため）
6	28	水	午前10時	本会議	<ul style="list-style-type: none"> ・付託案件に対する委員長報告、質疑、討論及び採決 ・選挙管理委員会の委員及び同補充員の選挙について ・議員派遣について ・閉会中の調査事項について

平成29年2月27日

都道府県議会 議長 殿
市区町村議会 議長 殿

公益社団法人 日本理科教育振興協会
会長 大久保 昇

平成29年度 理科教育設備整備費等補助金事業実施のお願い

～ 国庫補助金を活用した観察・実験機器の整備充実のお願い ～

梅花の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて、標記につきまして、さる2月17日に、文部科学省より全国都道府県に対し、平成29年度理科教育設備整備費等補助金事業の募集が通知されました。

当協会では、新しい理科教育の実現のため、説明会等を通じて理科教育設備整備費等補助金事業実施の拡充を目標に活動しております。

2月14日に次期学習指導要領(案)が発表されましたが、理科教育においては観察・実験を踏まえて学習する姿勢がますます重要とされています。

しかしながら、当協会が毎年実施しております理科教育設備整備に関する調査では、観察・実験器具の不足や、薬品や消耗材料の不足、現場の先生方にかかる負担等、小・中・高等学校の理科教育の環境はまだまだ十分とはいえない結果となっております。

御自治体管轄の小・中・高等学校の理科教育環境はいかかでしょうか。小・中・高等学校の理科教育の実態について、教育委員会に確認していただきたく思います。

折しも、現在、文部科学省にて、平成29年度の当事業実施の応募受付中です。

是非、この機会に、国庫補助金をご活用され、御自治体管轄の小・中・高等学校の観察・実験機器の整備を図り、理科教育環境の充実をお願いします。(※設置者で用意された理科設備品購入予算の枠内で国の補助金に応募すれば、同額が補助金として交付され、2倍額の設備品の整備ができます。)

なお、当事業の文部科学省の募集締め切りは、平成29年3月17日(金)となっております。ただし、申請書類の提出先は、各都道府県教育委員会の該当部署となるため、実際の締め切りは、3月17日より少し早くなりますので、ご注意ください。

理科教育設備整備費等補助金事業の手続き方法について簡単にまとめたパンフレットを同封いたしますので、ご活用ください。

本件のお問合せ先

公益社団法人 日本理科教育振興協会 常務理事 石崎
〒100-0052 千代田区神田小川町3-28 昇龍館ビル 4F
TEL:03-3294-0715 E-mail:info@japse.or.jp



「地球と人間を守れる社会体制創り」の為の地球社会建設決議陳情書

平成 29 年 4 月 10 日

議会

議長

殿

陳情者

〒231-0843 横浜市中区本郷町 3-287

荒木 實

国を守る為の戦争が地球を壊す。経済成長を求めて地球を壊す。国際社会の正義。「富国強兵」の世界。軍事力・巨大な破壊力に支えられた権力者達。「国を守る」為の凄絶なチキンゲームに没頭しています。生存競争の思考の中、地球で生きている人間達が凄絶な経済競争をしています。軍拡と温暖化は進行し、世界の危険と異常さは極限にきています。地球と人間・生命を守る為に軍備をなくし経済活動を抑えなければなりません。全ての人間が地球で生きています。絶対事実です。生きる為には地球を守れる社会体制を創るしかありません。地球社会建設は、全地球市民に対する絶対命令です。ついては、「地球と人間を守れる社会体制創り」の為の地球社会建設決議をして頂くよう陳情します。

地球社会建設決議草案

- 1) 全ての人間が、地球で共同生活をしている地球市民である。地球市民は、地球の尊さ、人間の尊厳の尊さ、地球世界の美しさ、人間の美しさを知る者である。
- 2) それぞれの持ち場で地球社会の安全と繁栄に努力する事が、地球市民の基本的義務である。
- 3) 地球社会の目的・目標は、地球全生命と共に、全ての人間の人生を守る事にある。その為、教育・雇用・生活を保障する社会技術の開発に努めねばならない。この規定は、人類の戦争放棄を意味し、国家の戦争行為、戦争準備行為の権利がない事を宣言するものである。地球市民を暴力から守る「守り人の組織」は、地球社会で一元化されるものである。
- 4) 人道・人権は地球社会の基本法である。独裁は如何なる形態でも許されない。地球社会は、民主主義が機能する社会格で構築されるものである。行き過ぎた生存競争は、人間の醜悪な心を導き出し、強大な力を求めさせ、この基本法に反する事になる事を知らねばならない。
- 5) 陸・海・空の空間、石油他の資源、先人の遺産は、現存する地球市民全員の共有である。地球市民の生活空間は、貸借関係保障によるものであり、多大な占有はあり得ない。地球社会で領土問題はあり得ない。
- 6) 考える事さえ出来ない時間、そして考えられない偶然の積み重ねで、生命が守られる地球環境がある。この地球環境の保全こそ、全てに優先されるべきである。自然の整然化。国家、集団、個人の利益の計算を超えた巨大で絶対的利益である。地球を守れる人間社会体制の創造は、全市民が参加すれば出来る事である。人間にはその力がある、と確信するものである。

反原発の声は上がっています。核廃絶の声は全くしません。核廃絶は意味が無くなっているのでしょうか。この決議は、「国を守る為」の根拠・口実をなくし、世界中の軍人達の「仮想敵の殲滅訓練」の根拠・口実をなくします。権力者達のチキンゲーム外の間人達が出来た唯一の手段です。

生きる為の努力を始めるか否か。助け合い社会を目指すか否か。です。



「国を守る為」の戦争が地球を壊す。経済成長が地球を壊す。

今、反原発の声は高らかに響いています。核廃絶の声はなくなりました。核廃絶の意味はなくなったのでしょうか。

地球を守る事は、人間と生命と国（地球の一部）を守る事。国を守る事は、人間と地球と生命と国を滅ぼす事。地球と人間を守る為に、つまり、生きる為には、人間社会の仕組みを変えるしかありません。

地球を守る為には軍備をなくさねばならない。国を守る為には軍備を強化するしかない。地球を守れる体制。全ての人間が地球を守る意識を共有して一体体制になるしかありません。現在と別世界を建設。地球社会を建設するという意味です。地球を守れる体制は地球社会という、全ての人間が地球市民として生きる体制一つです。

国（所属している社会体制）を守る体制。現在の国際社会体制・資本主義体制です。

不思議な事です。全ての人間が地球で生きています。事実です。にもかかわらず、地球を壊そうとしています。事実です。自分達で自分達を滅ぼそうとしているのです。事実です。現在の国際社会体制・資本主義体制が、人間達を自滅へ向かわせています。人間という生物種自体は、愚かで心の弱い生物です。自滅への道は人間の所為ではありません。愚かで弱い人間達が、生存競争・エゴに衝き動かされ、導かれて創った仕組み、社会体制の所為です。地球を守れるか否か。人間という生物種が生きながら得るか否か。仕組みにかかっています。人間達が地球市民になれるか、地球社会建設に向かうか否かにかかっています。

「人間が人間を棄てる」。「生存競争を当然」とする思考の世界で行われてきた事です。戦争の歴史、奴隷の歴史が証明してきた事です。戦争と化石燃料と資本主義が、人間にとてつもない力を与えました。その力は、自らを自滅させる力になっています。「人間が自分達で自分達を滅ぼそうとしている」事実は、「人間が人間を棄てる事が出来る仕組み」によってもたらされています。戦争が自滅だ、という事は、ほとんどの人間が感じています。ただ、資本主義が自滅へ導いている、と感じている人は、ほとんど、いないのではないのでしょうか。軍備をなくそう。共感を得られるでしょう。経済成長を抑えよう。共感は難しいのではないのでしょうか。軍備解体・成長抑制、共に、地球を守る為の絶対条件です。

戦争は人間を殺します。軍備。戦争という殺し合いの為の準備です。国際社会という仕組みが強要している作業です。「国家の主権」。地球を守る事を遠ざけ、国の為に、と軍拡を強要している基本概念です。軍人に支えられる国家主権の代表者。その中の数人が、全ての生命を握っているのが、現状の世界です。権力です。

カネは人間を支配し、棄てる力を有します。金力です。

権力。生殺与奪の暴力の力・強大な軍備が支える組織の長が保有する強大な権力。国際社会で、数億人、数十億人の生命を左右するチキンゲーム、(臆病ではない事を競うゲーム)が行われています。参加者は、トランプ、プーチン、習近平、金正恩、ネタニヤフです。資格は、核兵器保有権力保持者で独裁出来る人格保持者。恐れるのは、犠牲者ではなく、「チ

キンハート (臆病者)」とみなされる事。日本の首相はゲーム外に置かれています。オバマ氏は不向きでした。トランプはこのゲームを熱くするのではないのでしょうか。80年前のチキンゲームの参加者は、ヒトラー、チャーチル、スターリン、ルーズヴェルト、近衛文麿でした。80年前のチキンゲームは、第二次世界大戦を起こしました。アウシュヴィッツ、ヒロシマナガサキに繋がりました。現時点のチキンゲームは、何を起こし、何をもたらすのでしょうか。そのチキンゲームに、運命を完全に支配されている全ての人間は、そのゲームを、ただ眺めているだけです。何も出来ない仕組みです。眺めるだけです。メディア人、政治家、経済人、学者、宗教家……。ただ眺めているだけです。

世界に軍人は、何百万人、何千万人います。彼らは全て、いずれかの国家に所属しています。この軍人達は、全て、仮想している敵を殲滅する手段を、常に思い描き、毎日、訓練に励んでいます。今の軍人は、毎日、戦争を想定させられ、死を恐れるな、と叩き込まれています。日々、緊張状態に置かれています。いつか臨界点がきます。必ず、です。

チキンゲームをなくす言葉があります。軍人達から、仮想敵をなくす言葉があります。この言葉はチキンゲームの根拠・口実をなくします。仮想敵の根拠・口実をなくします。

「地球と人間を守る為に」。という言葉です。この言葉に対抗出来る権力はありません。この言葉に対抗出来る金力はありません。生存の為の唯一の言葉です。

資本主義。カネが主人になり、人間を奴隷化します。カネがカネを求めて徘徊する証券取引所。この動きの中で多大な人間が生活手段を奪われていきます。有価証券。人間の生活に必要な物を作る (実業) のではなく、人間の思惑が作る通貨 (虚業) です。それこそ莫大なカネ・富の創造です。人間の生活には、様々な物・土地・サービス等が必要であり、通貨は、これらと交換する事が出来ます。富は通貨の蓄積であり、多くの生活物資の獲得を可能にします。貧窮は、通貨がない、失う事で、生活を困難に陥れます。更に通貨は、物を生産する為の土地・道具・人材などの獲得も可能にします。物を生産し、通貨に変えれば利益が発生し、通貨の蓄積に繋がります。その為の通貨を融通する社会技術・社会機関も誕生しました。人々がカネを出し合って生産所を作る。株式会社です。人々がカネを預け、そのカネを必要とする人々に貸付、利息を上乗せして回収する業務機関・銀行です。この生産行為・業務行為が様々な変化を現し、様々な局面を現し、人々を、様々な人生に導きます。これ等の現象が、更に新たな社会技術を産み出し、カネがカネを産み、多大な人々からカネをなくさせ、貧窮者を増殖させていきます。資本主義に導かれて、ハーヴァードなどで開発された社会技術がもたらしている現実です。人々は、「人間が人間を棄てる」仕組みに疑問を抱かず、毎日を「生存競争に勝つ為に」必死に過ごしています。

資本主義が生み出した最大は、共産主義です。マルクス達のやった事。資本主義の仕組みの展開を分析し、少数のカネ持ち達と圧倒的多数の貧窮者への分離展開を描きました。カネのない労働者は平等であり、生活賃金も同じである。とする社会技術の裏付けのない理念だけの共産主義を生み出しました。革命という権力闘争の一方が、共産主義の理念を利

用し、多大の共鳴者を集め、武力を強大化し、革命を成功させました。ソ連・中共等の武力抑圧社会国家の誕生です。「力の世界は、動と反動の連鎖」です。暴力には暴力です。支配暴力には抵抗暴力です。資本主義の「動と反動」が冷戦になりました。共産主義の必然としての経済の停滞・退化が、社会を変化させました。歴史的社会的感覚の相違が現在の違いになりました。ソ連は解体し、選挙を取り入れロシアになりながら、プーチンを産み、武力独裁社会へ、中共は、毛沢東後、鄧小平が資本主義技術を取り入れ、官僚が指導し、経済大国へ変貌しました。更に、アメリカ・他の話です。企業を買収し、買収企業の再生の為、莫大な年収でCEOを雇います。先ず、首切りです。働く人々の生活を顧慮する事、全くありません。その為の莫大な年収です。誰でも払える額での住宅購入。しかし、支払い額が急激に増える住宅ローン。払えずに住宅を手放さざる得なくなる人々。ほとんど詐欺です。法的な責任は問われません。不良債権の購入。莫大な利益を産んだようです。中産階級の没落です。トランプ・極右を生み出す貧窮者の増殖です。

すでに、生存競争には、意味がなくなっている事に気付かずに、です。現在の生存競争は、軍拡と温暖化で人類を死地に追い込んでいるのが事実だからです。生存競争をしながら、共倒れへ、共倒れへと努力しています。着実に自滅へ歩んでいます。国際社会という仕組みが強要している現実です。資本主義という仕組みに踊らされている現実です。蟻地獄に呑みこまれた蟻（人間）と同様の姿です。仕組み（蟻地獄）が人間（蟻）を滅ぼそうとしています。仕組みは、目的があって創設されていきます。軍備。強大な脅威を与えます。莫大なカネ。強大な支配力を与えます。自然の摂理という仕組み。目的はありません。ただ、この仕組みがあって生命は生きている、という絶対事実があるだけです。

人間の最大の目的は、生存競争ではありません。生きる事です。自然の摂理の中でしか生きられなければ、自然の摂理の中で生きられる仕組みを創造するしかありません。

「地球を守る為に」。この言葉に従う事で、新たな仕組みの創造に歩み出す事が出来ます。地球は、自然の摂理が創造した生命の星です。唯一の生命の星です。この生命の星を守るしか、生きる道はありません。誰でも知っている事実であり、誰でも判る事実です。この事実が、全ての人間に命じているのです。

「地球を守る為に」。人間が、生命が生きていける仕組みを創る目的です。

その前提は、人間が地球市民の立場を認識する事です。地球市民は地球が生命の星である事実を細胞で感じており、敵という人間がいない事実を知性で知っています。国際社会を超え、国際社会が軍備を強要している姿を観察する為にです。資本主義を克服し、資本主義の本体、カネは「虚業」であり、助け合う事が「実業」である事を理解する為にです。

この目的の為に、現在の世界が、如何に危険であり、如何に自分達自身で自分達を滅ぼそうとしているか、の認識が重要です。映像、活字、様々な情報から、見えてはいます。が、「生存競争の毎日」がその認識を遠ざけています。「赤信号、みんなで渡れば怖くない」（ピートたけし）。正に、「自滅という赤信号」をみんなで渡っているのです。

現在のこの事態は事実であり、その事実を、多くの人々は認めませんが、感じ取っています。私の文書に対し、反応しない姿が、その事を語っています。

40年ほど前、「自分達で自分達を滅ぼそう」としている異常な世界を発見し、その不思議さを考え続け、20年ほど前、私は地球市民の立場に気付きました。地球で生きている、全ての人間の基本的立場は、全員で地球を守らねばならない地球市民の立場である事に。

12年前、地球市民の責任を果たそうと決意しました。「自分達で自分達を滅ぼそう」としている物理的象徴は核兵器です。核廃絶こそ「地球を守る為」の絶対条件であり、前提です。

10年前、ヒロシマ市長選に出る、という行動で、地球を守る為の道へ踏み出しました。

地球を守る為。反応出来る方はいませんでした。私の地球を守る為の言葉は、「現実離れ」という感じ方をさせ、ことごとく無視され、一人も地球市民にさせられませんでした。

「人々は、国を中心に考えて、毎日を過ごしている」事実気付いたのは、今年の1月末です。軍拡と温暖化で、人類が死地に入ったのは必然でした。「富国強兵」。国を富ませ、軍備を強化する。国家と云う歴史的仮想存在の本質です。富の源泉であるエネルギー消費。結果温暖化。軍備強化。結果軍拡。人類が死地に入るのは、結果当然の帰結事態です。

地球を守る。根本は軍備をなくす事です。地球を守る。自分自身を守る事です。全員が協力して対応しなければなりません。利益を優先していたら、地球を守る事は出来ないでしょう。地球を守るには、原子力技術、ミサイル技術も必要です。これ等の技術の悪用が出来ないように、悪用の根をなくす事・軍備をなくす事です。世界中の軍人が「地球を守る為」に一体にならなければなりません。一体になるしか生きられないのなら、一体になれるのではありませんか。戦争する事・死ぬ覚悟から自らを解放する唯一の手段です。

地球市民にとって、人間はみんな仲間です。どんな人間でも仲間です。一体となって地球を守る為の仲間です。力の有無・所属組織の違い。全く関係ありません。地球を守る。この目的を持てるか否かです。地球を守らねばならない。地球市民としての基本責任を自覚するか否か。地球社会が、全ての人間の人生を保障する社会技術を開発できるか否かです。

35年ほど前、ローマクラブが「成長を止めよう」と世界中に発信しました。世界中に「成長を止めよう」という活字が溢れました。環境破壊の実感のない世界から無視されました。温暖化・環境破壊曲線は、経済成長曲線の10年後？20年後？・・・？に、同一の曲線を描いているのではないのでしょうか。中国が経済成長に参加したのは30年ほど前でした。それからの世界経済成長曲線の右肩上がりは、凄まじい曲線を描いているのではないのでしょうか。これからの温暖化・環境破壊曲線は、どうなるのでしょうか。

北朝鮮が4発のミサイル同時発射に成功。在日米軍を標的に。活字が躍っています。大国の軍拡競争再び。活字が淡々としています。サンゴ礁が白化。映像が哀しんでいます。

目に見えてチキンゲームが煮詰まっています。温暖化が地球生命力を劣化しています。八方塞がりです。どうしたらいいのでしょうか。

生きる努力を始めるか否か。助け合い社会を目指すか否か。です。